

第3回 県都大分市交通円滑化の検討 中間報告

(大分スポーツ公園への自家用車等のアクセス改善)

令和2年5月28日(木)

(2) 大分スポーツ公園への自家用車等のアクセス改善

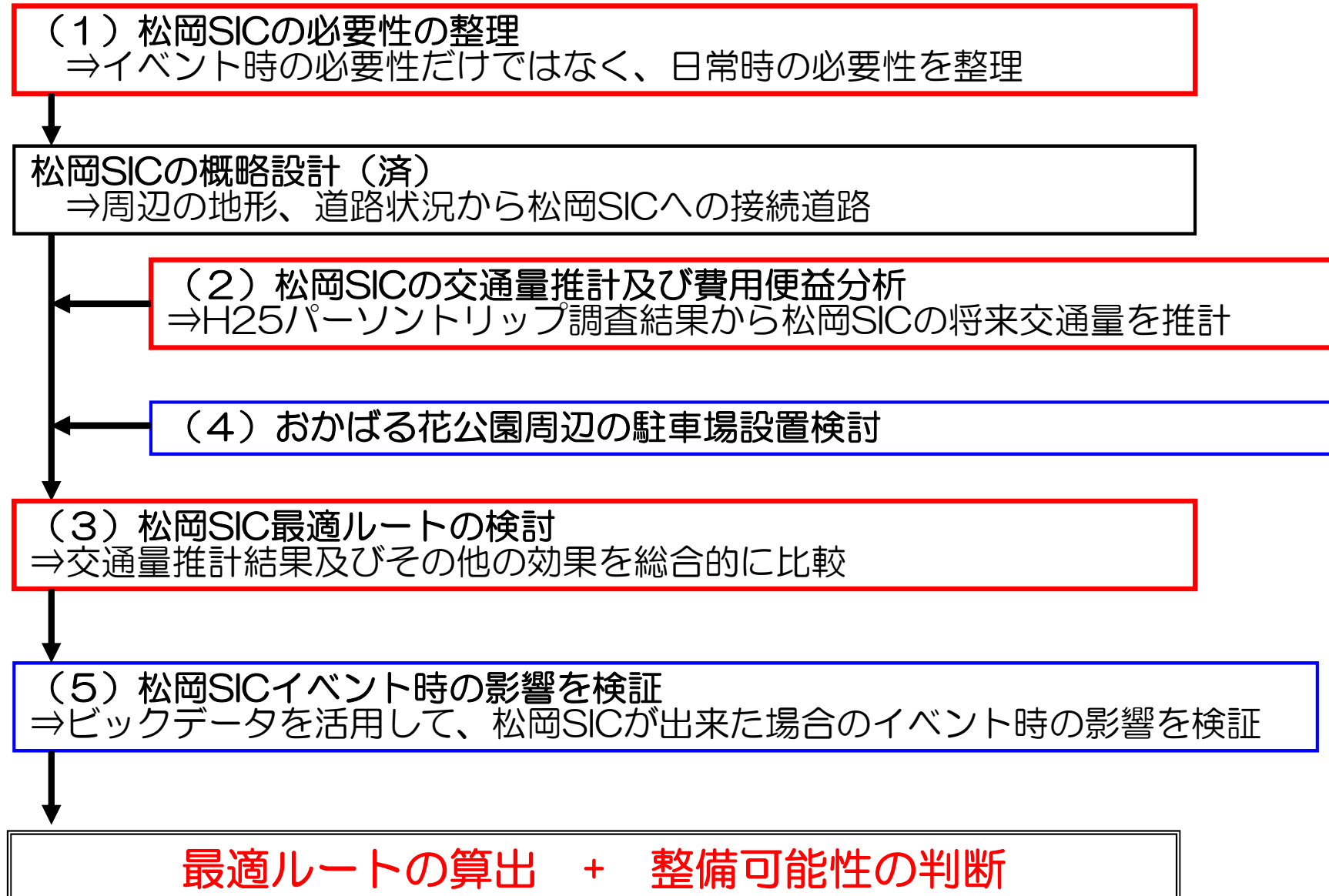
- ① 検討の手順
- ②
 - (1) 松岡SICの必要性の整理
 - (2) 松岡SICの交通量推計及び費用便益分析
 - (3) 松岡SIC最適ルートへの検討
- ③ 今後の予定

① 検討の手順

■ 松岡SICの検討手順

※赤枠：今回の報告事項

※青枠：次回の報告事項



② (1) 松岡SICの必要性の整理

① 地域支援 (集客力の向上)

◇松岡SICが整備されると、福岡・別府方面からは約2分短縮、宮崎・臼杵方面からは約5分短縮

◇松岡SICが整備されるとパークプレイス大分や大分スポーツ公園等へのアクセスが向上し、集客力が高まる

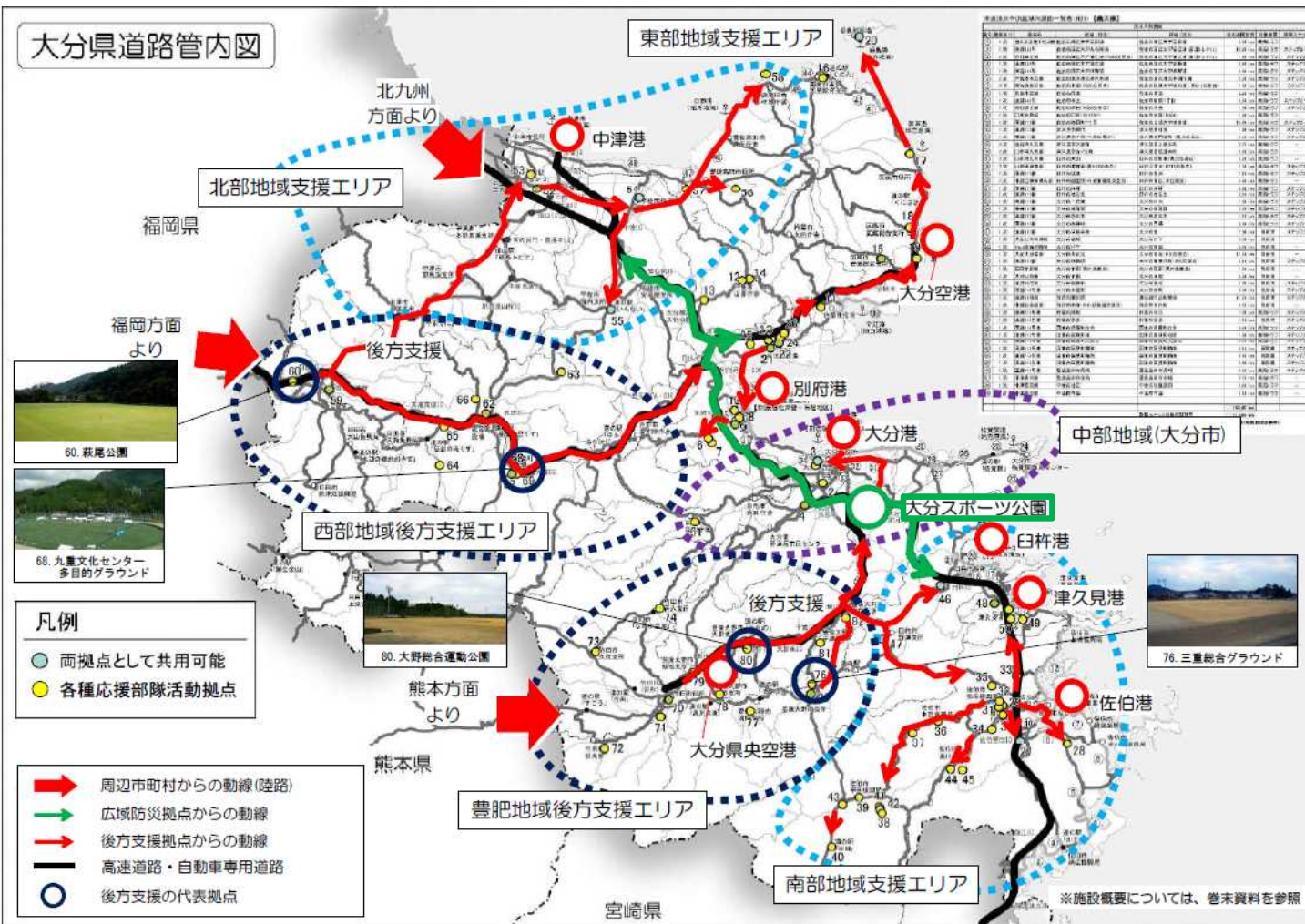


② (1) 松岡SICの必要性の整理

② 広域防災性の強化 (広域防災拠点の支援)

◇大分スポーツ公園は、県地域防災計画(H26.6修正)において広域防災拠点として位置づけられている

◇松岡SICが整備されると広域圏からのアクセスが向上することで、被災時においても県内外へのより円滑な救命・救助や救援物資輸送などの機能を発揮できる



【広域防災拠点の基本的考え方】

- ・災害発生後72時間まで → 救命・救助を最優先
- ・災害発生後72時間以降 → 救援物資輸送(被災者生活支援)

【大分スポーツ公園に持たせる機能】

- (1) 指令、調整、情報収集機能(現地調整所)
- (2) 応援部隊の進出・活動・宿営機能
- (3) SCU(広域搬送拠点臨時医療施設)機能
- (4) 救援物資の集積・輸送機能

【周辺施設の活用】
(応援部隊の車両等からの県民の安全確保の観点から)

- (1) 来園者の一時避難所
- (2) 災害ボランティアの活動支援

【市町村施設の活用】
(より効果的・効率的な部隊展開、救援物資輸送)

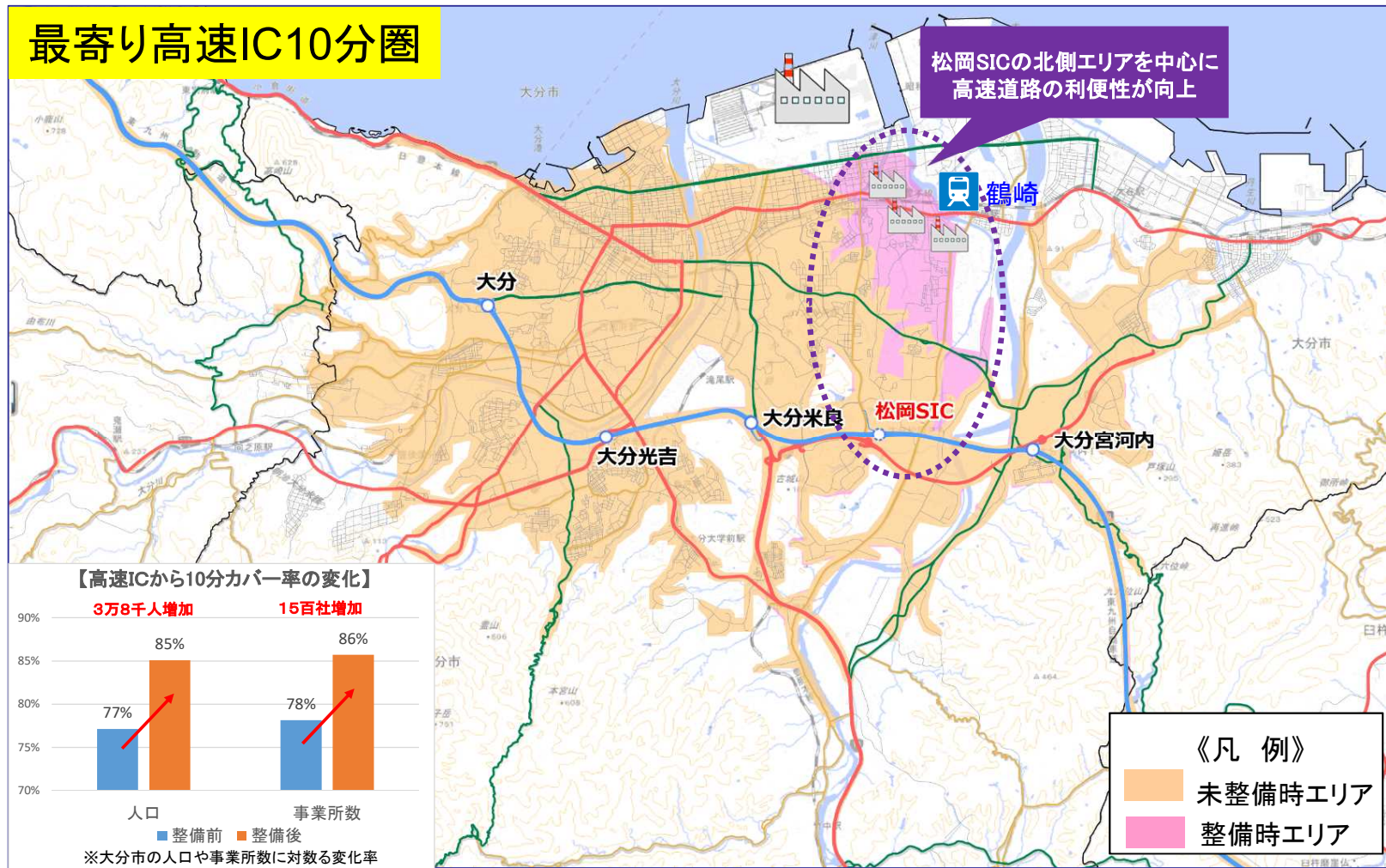
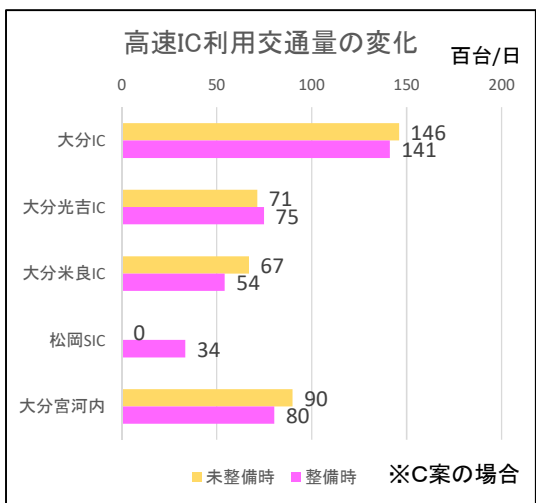
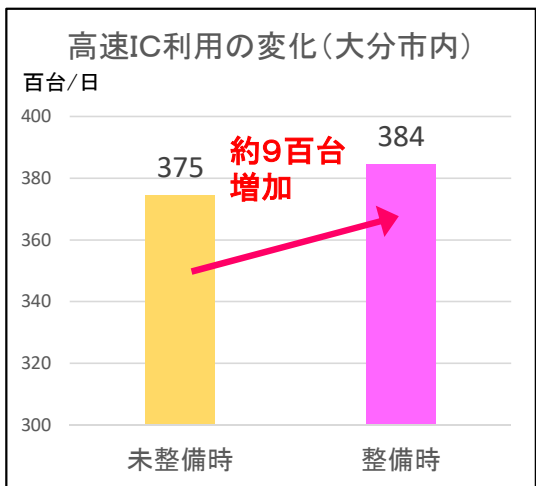
- (1) 南部、東部、北部地域 (前進・活動機能)
- (2) 豊肥・西部地域 (後方支援機能)

出典: 大分県広域防災拠点基本計画(H30.11修正)

② (1) 松岡SICの必要性の整理

③ 潜在需要の取り込み (利用者増加・産業支援)

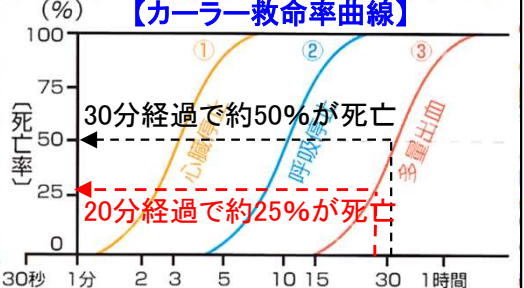
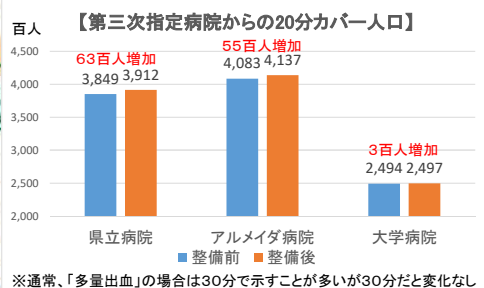
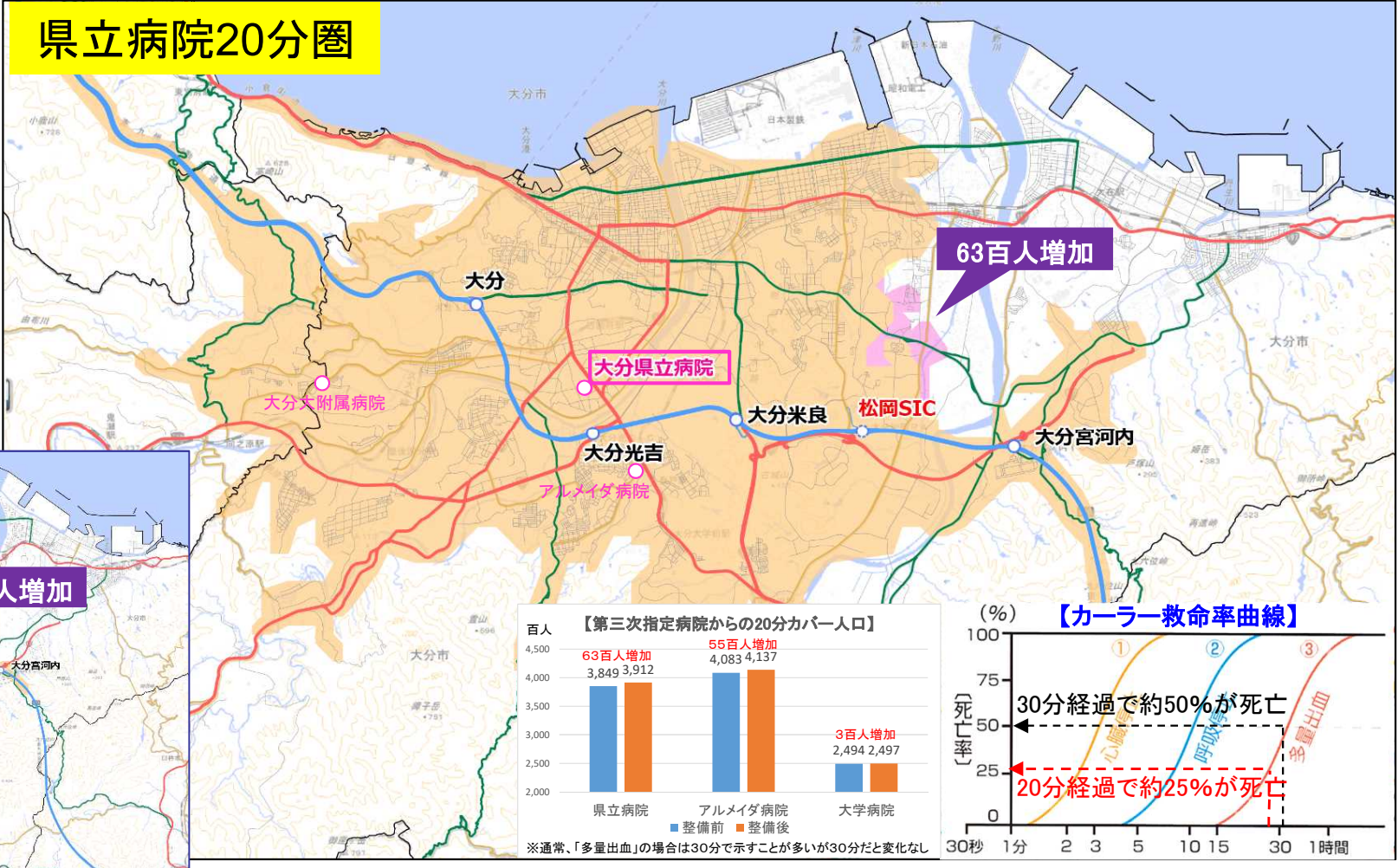
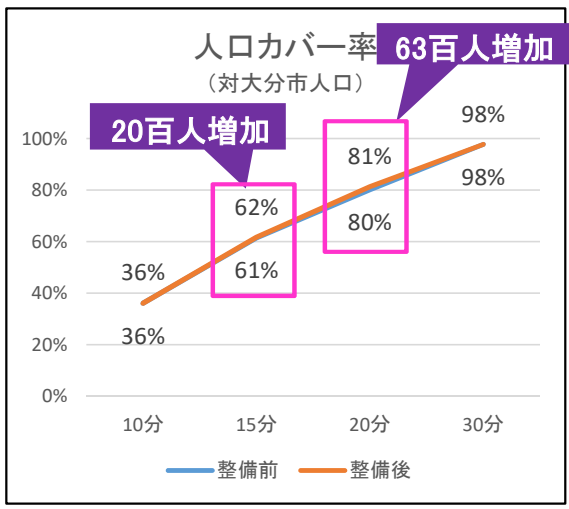
- ◇ 現況(未整備時)では、市内4つの高速IC利用は合計375百台/日(将来:H42年)
- ◇ 松岡SICが整備されると、北側エリアを中心に高速ICの利便性が高まることで、市内合計で384百台/日となり、9百台の利用増加が見込まれる
- ◇ また、鶴崎周辺の製造工場からの高速ICアクセスが向上し、産業支援にもつながる



② (1) 松岡SICの必要性の整理

④ 救急救命活動の円滑化 (第三次救急指定病院)

- ◇ 出血多量のような重篤患者の場合、病院での処置を少しでも早くすることで生存率を高めることができる
- ◇ 現況(未整備時)では、最寄高速ICから15分で61%、20分で80%の市民を大分県立病院に搬送できる
- ◇ 松岡SICが整備されると、15分で62%(20百人増加)、20分で81%(63百人増加)の市民を搬送できる



② (2) 松岡SICの交通量推計及び費用便益分析

① 交通量推計ケース

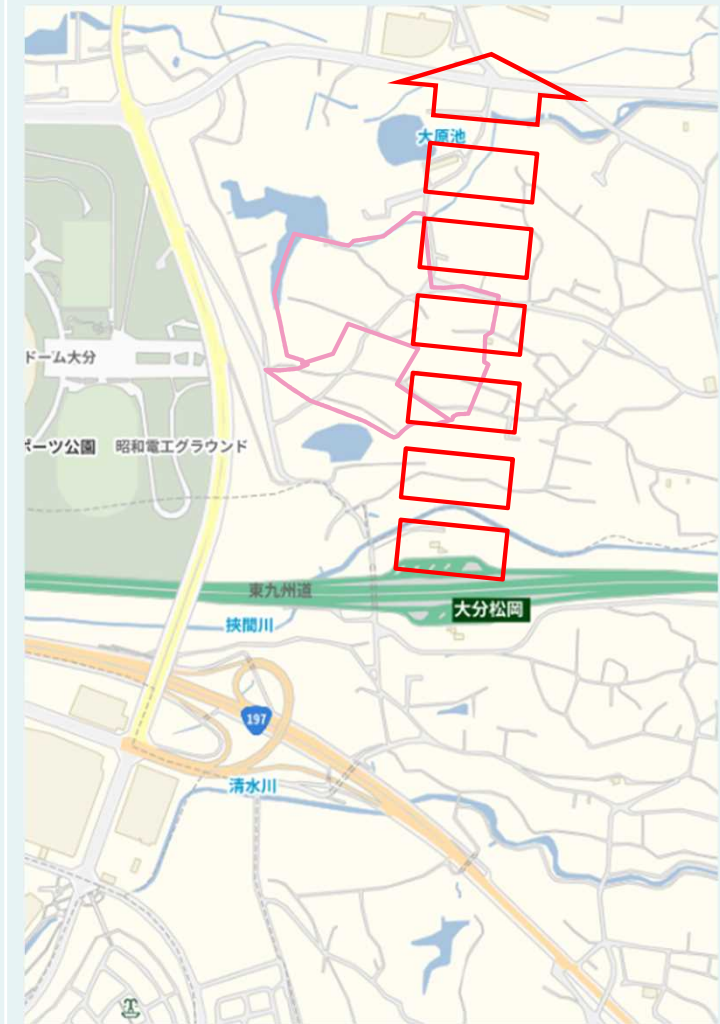
A案(R197号)



B案(県道松岡日岡線)



C案(市道大原江又線)



② (2) 松岡SICの交通量推計及び費用便益分析

②費用便益分析結果

評価項目	比較項目	国道197号	県道 松岡日岡線	市道 大原江又線	備考
		A案	B案	C案	
交通量	スマートインターチェンジの交通量				R17 (台/日)
費用 (単純合計) (億円)	事業費 (料金收受設備含む)				
	維持管理費 (管理員費、機器更新費含む)				
	合計	精査中			
便益 (単純合計) (億円)	走行時間短縮便益				
	走行経費減少便益				
	交通事故減少便益				
	合計				
費用便益比	B/C				

③ 今後の予定

■ 松岡SICの検討手順

※青枠：次回の報告事項

